

別添 1

基本評価シート

様式

(ニホンジカ)

(宮城県環境生活部自然保護課)

基本評価シート（ニホンジカ）

1. 事業の基本情報

事業名（※1）	宮城県ニホンジカ・イノシシ生息状況等調査業務		
	宮城県指定管理鳥獣捕獲等事業（ニホンジカ）捕獲業務		
都道府県名	宮城県	担当者部・係名	自然保護課 野生生物保護班
担当者名	山田	担当者連絡先	022-211-2673
捕獲実施事業者	一般社団法人宮城県猟友会 (認定を受けている)	予算額（※2）	232,352,530
		予算額の内捕獲に要する経費（※3）	9,900,730

（※1） 交付金を用いて実施した事業名を記入。複数ある場合は、事業件名ごとに記入。

（※2） 予算額は、交付金の対象となる指定管理鳥獣捕獲等事業の全体予算を記入する。

（※3） 予算額の内、捕獲に要する経費は、平成28年度から適用される交付金所要額調書様式1-2「2指定管理鳥獣の捕獲等」の内訳を記入。その他にも、捕獲に要する経費がある場合は、別途加算する。

○令和6年度における生息等の状況及びこれまでの個体群管理の取組み

〈指定管理鳥獣捕獲等事業の実績〉

地区名	事業目標 (目標頭数などの数値目標)	実施結果	
		捕獲頭数	目標達成率
県北東区域	150頭	297頭	198%
石巻・女川区域	732頭	632頭	86%
県内陸区域	50頭	49頭	98%
合計	932頭	978頭	105%

〈生息等の状況及びその他の捕獲実績〉

推定生息頭数	特定計画管理目標	目標生息頭数
16,183頭（令和5年度末）	捕獲数5,272頭以上／年	なし
狩猟捕獲数	許可捕獲(有害)	許可捕獲（個体数調整）
388頭	3,259頭	0頭

○これまでの個体群管理の取組み（都道府県単独事業）

平成 23 年度から牡鹿半島地域を対象として県による個体数調整を実施し、平成 25 年度から平成 26 年度までは気仙沼地域を対象に加えて実施。

2. 令和 6 年度指定管理鳥獣捕獲等事業の実施概要

項目	概要
事業背景・目的	記述欄： ニホンジカによる生活環境、農林業又は生態系に対する被害の動向、本県内におけるニホンジカの捕獲数及び生息数の動向、生息数と被害の関連性等の観点から、第二種特定鳥獣管理計画の目標を達成するため必要に応じて、既存の個体群管理のための事業に加え、指定管理鳥獣捕獲等事業を実施する。 ※特定計画の中での指定管理鳥獣捕獲等事業の位置づけも記載する。 【選択欄】 ☒ 特定計画の管理目標に不足する捕獲数を高密度地域で上乘せした。 ☒ 分布拡大防止を目的として生息域の外縁で捕獲を実施した。 ☐ 効果的な捕獲手法の開発を行なった。 ※事業実施目的に最も近いものを 1 つ選択。
人材育成の観点	☐ 人材を育成するための配慮、取組がなされている。
実施期間	令和 6 年 1 0 月 1 日から令和 7 年 3 月 1 4 日まで （うち捕獲実施期間、令和 6 年 1 1 月 1 日から令和 7 年 2 月 2 8 日まで（4 カ月））
実施区域	県北東区域：生息密度の急激な増加が確認されている地域であり、今後の被害増加を抑制するために捕獲圧を与える必要がある。 石巻女川区域：原住地域である牡鹿半島から生息域を拡大しており、半島以外の地域でも生息密度が高く早急に個体数の減少が必要な地域である。 県内陸区域：近年目撃情報が寄せられている地域であり、生息域拡大防止のために捕獲圧を与える必要がある。 ※ 1：実施区域の特徴も記入 ※ 2：事業計画の地図がある場合は、図面を添付
関係機関との協力	事業区域の市町村及び所轄の警察署に対し、業務の協力依頼を行った。
事業の捕獲目標	（ 1 0 5 % 達成） =（ 9 7 8 実績値）／（ 9 3 2 目標値）
捕獲手法	【銃猟】 ☐ 誘引狙撃 ☒ 巻き狩り ☐ 忍び猟 ☐ モバイルカリング ☐ 夜間銃猟 ☐ その他（ ） 【わな猟】 ☒ くくりわな ☒ 箱わな ☐ 囲いわな ☐ その他（ ） ※ 1：各種猟法の定義は 9 ページ参照、※ 2：複数チェック可
捕獲個体の確認方法	☒ 個体の身体の一部（耳、尾など） ☒ 写真（詳細を記載：個体番号を付けて撮影） ☐ その他（ ） ※複数チェック可。
捕獲個体の処分	捕獲個体の処分について ☐ 全て焼却又は埋設を行っている。

	☒ 一部、食肉等への活用を行っている。 ☐ 一部、放置を認めている。 ※複数チェック可
環境への影響の配慮	わなによる錯誤捕獲について ☒ 錯誤捕獲の情報を収集している。 ☐ 錯誤捕獲の実態は不明である。 わなによる錯誤捕獲の未然防止について ☒ 錯誤捕獲の防止対策をしている。 （内容： くくりわなの輪の直径を 12 センチメートル以内とし、かつワイヤーの直径が 4 ミリメートル以上、締め付け防止金具及びよりもどしを設置） ☐ 錯誤捕獲の防止対策はしていない。 鳥類の鉛中毒等について ☒ 鳥類の鉛中毒症例がない。 ☐ 鳥類の鉛中毒症例が確認されている。 鉛製銃弾について ☐ 全て鉛製銃弾を使用している。 ☒ 一部、非鉛製銃弾を使用している。 ☐ 全て非鉛製銃弾を使用している。
安全管理の体制	安全管理規程を有しており、安全管理の体制は申し分ない。
捕獲従事者の体制	【雇用体制】 捕獲従事者数：517 人 （内訳） 正規雇用者： 人、期間雇用者： 人 日当制： 人

3. 令和 6 年度指定管理鳥獣捕獲等事業の評価

○指定管理鳥獣捕獲等事業の達成状況の評価について

1. 捕獲に関する評価及び改善点※	
【目標達成】	評価： 目標達成率は 105% で目標達成することができた。区域別では県北東区域で 198% と目標捕獲数の約 2 倍の捕獲実績があり、比較的に生息密度の低い県内陸区域でも 98% とほぼ目標通りの捕獲をすることができた。
	改善点： 引き続き捕獲実績や生息密度指標などを基に計画的に捕獲目標を設定する。
【実施期間】	評価： わな猟、銃猟ともに期間中継続的に捕獲ができていることから、適切な実施期間を設定することができた。
	改善点： 引き続き各区域の捕獲実績等から効果的・効率的な捕獲実施期間の設定をおこなう。
【実施区域】	評価： 実施区域を生息密度の高い石巻・女川区域だけでなく、広域に設定することにより、生息密度が増加傾向にある県北東区域や、比較的に生息密度の低い県内陸区域で捕獲実績をあげることができた。

	改善点： 引き続きニホンジカの生息域拡大の可能性も考慮し、モニタリング調査などの情報をもとに毎年適切な実施区域を設定する。
【捕獲手法】	評価： わな猟と銃猟を地域の状況に合わせて選択することで効率的に捕獲を行うことができた。
	改善点： 今後も状況に合わせて適切な捕獲方法を選択して実施する。
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	評価： 十分な捕獲従事者を配置することができた。
	改善点： 引き続き適切な実施体制が整えられるよう指導する。
【個体処分】	評価： 適切に埋設等実施された。
	改善点： 引き続き適切な個体処分に努めるよう指導する。
【環境配慮】	評価： 特に外部からの問い合わせは無かった。
	改善点： 引き続き環境配慮に努めた事業実施を指導する。
【安全管理】	評価： 事故無く捕獲事業が実施できた。
	改善点： 引き続き無事故が続くように、事業者へ安全への配慮に努めるよう指導する。
3. その他の事項に関する評価及び改善点	
4. 全体評価	
生息密度の高い石巻・女川区域だけでなく、県北東区域や県内陸区域でも状況に合わせた猟法を選択し効率的に捕獲を行うことで捕獲実績を上げ、捕獲目標を達成することができた。	

※「改善点」の欄には、評価結果を次期の指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画にどう反映するか等について記入する。

○第二種特定鳥獣管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

本事業の実施により、第二種特定鳥獣管理計画の捕獲頭数の目標に上積みすることができた。実施場所はニホンジカの侵出抑制地域が含まれており、生息域拡大防止に一部寄与したと考えられる。

4. 必須となる記録項目

(1) データの整備状況

ア) 基礎となる記録項目の整備状況

指定管理鳥獣捕獲等事業において整備している情報の項目にチェックをつける。

項 目	整備状況	備考
①捕獲数・目撃数・捕獲努力量等の位置情報	☐ 行政区域（都道府県・市町村）ごと ☐ 事業区域ごと ☒ 5 km メッシュ ☐ 1 km メッシュ ☐ 捕獲地点（緯度経度） ☐ 捕獲等に関する位置を記録していない	
②捕獲数	☒ 捕獲した個体の総数 ☒ 雌雄の別 ☒ 幼獣・成獣の別 ☒ その他捕獲した個体に関する情報 （ 体重、体長、体高 ）	
③目撃数	☒ 作業の従事者が目撃した個体の総数	
④捕獲努力量	☒ 銃猟：のべ作業人日数※ ☒ わな猟：わな稼働日数 （わな稼働日数＝わな基数×稼働日数）	

※のべ作業人日：捕獲作業期間中に捕獲に従事した作業人数の合計。事前調査や下見に費やした作業の人日数は除く。

イ) 捕獲に関する概況地図の作成の可否

	作成できる概況図（地図）※についてチェック
捕獲位置の地図	☒ 5 km メッシュ地図 ☐ 1 km メッシュ地図 ☐ 地点（緯度経度）地図 ☐ 捕獲位置の地図を作成できない
CPUE の地図	☒ 5 km メッシュ地図 ☐ 1 km メッシュ地図 ☐ 地点（緯度経度）地図 ☐ CPUE の地図を作成できない

SPUE の地図	☒ 5 kmメッシュ地図 ☐ 1 kmメッシュ地図 ☐ 地点（緯度経度）地図 ☐ SPUE の地図を作成できない
概況図を作成する 上での課題	

※概況図は原則として添付する。添付できない場合は「作成できない」をチェックする。

（２）実施結果（必須となる記録項目）

ア）捕獲努力量に関する事項

①銃器による捕獲

外業の人日数総数※¹： 不明 人日

事前調査人日数概数※²： 不明 人日

出猟（捕獲作業）人日数： 1, 3 7 6 人日

項 目	令和 6 年 (事業年度の値)	令和 5 年 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量（銃猟） のべ人日数 (1日に複数のメッシュに出 役した場合はそれぞれ1 日とする)	1, 3 7 6 人日	4 6 9 人日	☒ 増加 ☐ 減少

※¹:事前調査人日数概数と出猟（捕獲作業）日数の合計

※²:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

②わなによる捕獲

外業の人日数総数※¹： 不明 人日

事前調査人日数概数※²： 不明 人日

出猟（捕獲作業）人日数： 不明 人日

項 目	令和 6 年 (事業年度の値)	令和 5 年 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量（わな猟） わなの稼働総数（わな基×日数）	56, 134 基日	50, 016 基日	☒ 増加 ☐ 減少

※¹:事前調査人日数概数と出猟（捕獲作業）人日数の合計

※²:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

イ) 捕獲に関する結果

①銃器による捕獲

項 目	令和 6 年 (事業年度の値)	令和 5 年 (前年度の値)	増減の傾向
①捕獲数	2 5 1 頭	1 3 9 頭	☒ 増加 ☐ 減少
②目撃数	1, 4 7 6 頭	5 3 3 頭	☒ 増加 ☐ 減少
③雌雄比 (雌捕獲数／全捕獲数)	55.4% (139 頭／251 頭)	48.2% (67 頭／139 頭)	☒ 増加 ☐ 減少
④幼獣・成獣比 (幼獣数 [※] ／全捕獲数)	4.4% (11 頭／251 頭)	0.0% (0 頭／139 頭)	☒ 増加 ☐ 減少

令和 6 年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（銃器）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	作業人日数 ^{※1}	CPUE ^{※2}	SPUE ^{※3}
☐ 誘引狙撃	頭	人日	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少
☒ 巻き狩り	251 頭	1,376 人日	0.182 頭/人日 ☐ 増加 ☒ 減少	1.037 頭/人日 ☐ 増加 ☒ 減少
☐ 忍び猟	頭	人日	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少
☐ モバイルカリング	頭	人日	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少
☐ 夜間銃猟	頭	人日	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少
☐ その他 ()	頭	人日	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少

※1：作業日数には捕獲を実施していない誘引期間は含まない。

※2：CPUE＝捕獲数／のべ人日数

※3：SPUE＝目撃数／のべ人日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

③わなによる捕獲

項 目	令和 6 年 (事業年度の値)	令和 5 年 (前年度の値)	増減の傾向
① 捕獲数	7 2 7 頭	7 6 9 頭	☐ 増加 ☒ 減少
②雌雄比 (雌捕獲数／全捕獲数)	52.0% (378 頭／727 頭)	52.5% (404 頭／769 頭)	☐ 増加 ☒ 減少
② 幼獣・成獣比 (幼獣数※／全捕獲数)	0.1% (1 頭／727 頭)	0% (0 頭／769 頭)	☒ 増加 ☐ 減少

令和 6 年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（わな）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	わな稼働総数※ ¹	CPUE※ ²
☒ くくりわな	7 2 7 頭	5 5, 5 6 6 基日	0.013 頭/基日 ☐ 増加 ☒ 減少
☒ 箱わな	6 頭	5 6 8 基日	0.0106 頭/基日 ☒ 増加 ☐ 減少
☐ 囲いわな	頭	基日	頭/基日 ☐ 増加 ☐ 減少
☐ その他 ()	頭	基日	頭/基日 ☐ 増加 ☐ 減少

※1:わな稼働総数には捕獲を実施していない誘因期間は含まない。

※2:CPUE＝捕獲数／わな稼働日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

エ) 捕獲個体の適切な処理

処理にかかる人工概数： 不明 人・時間

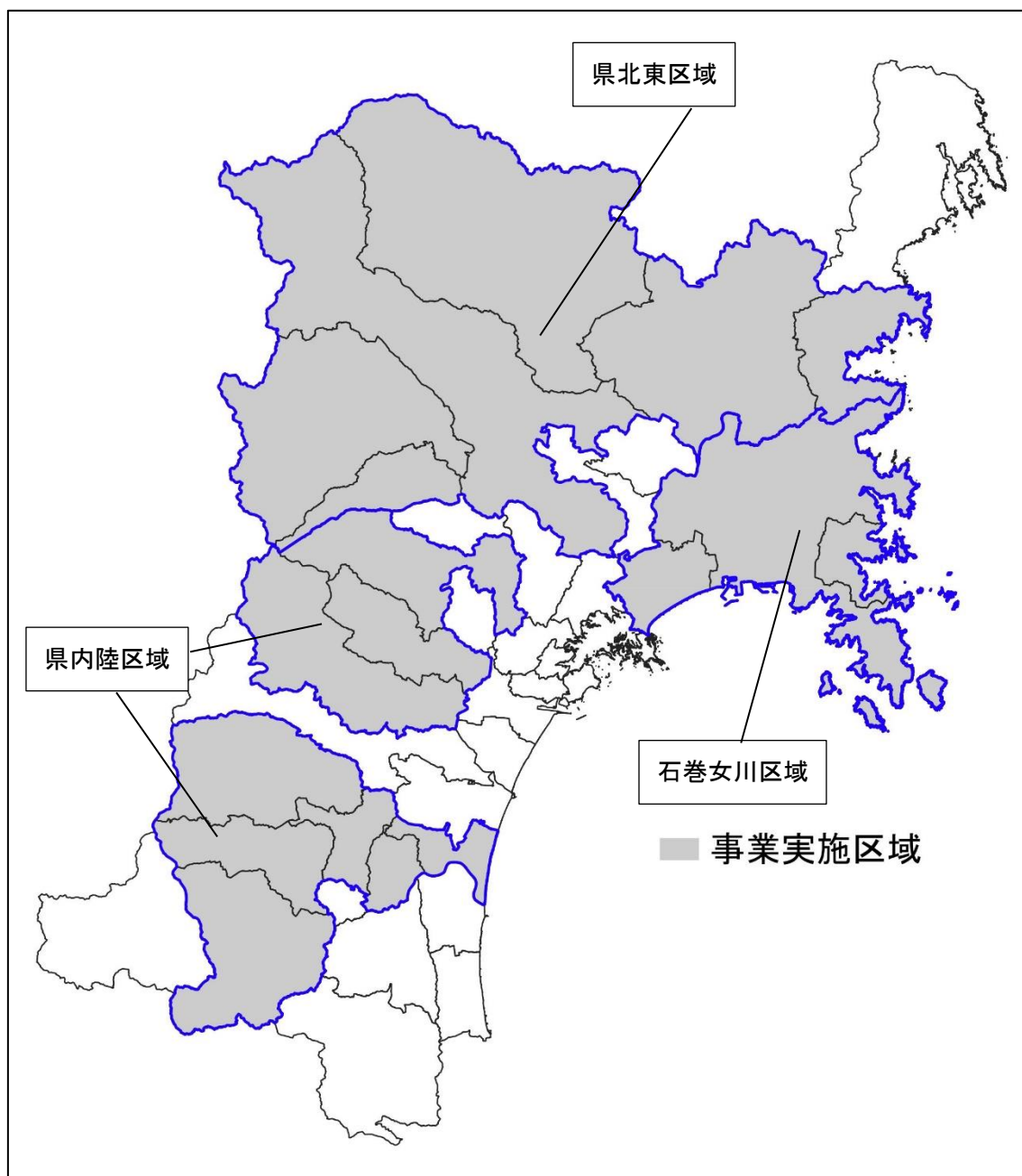
処理した個体のうち、食肉等への活用した個体の数量概数： 32 個体（自家消費）

適正な捕獲が実施されたかを確認する手法
通しナンバーを捕獲個体の左側胴体にペンキ等で記入するか、又はホワイトボード・黒板等に記入し、捕獲個体とともに写真を撮ったもの。

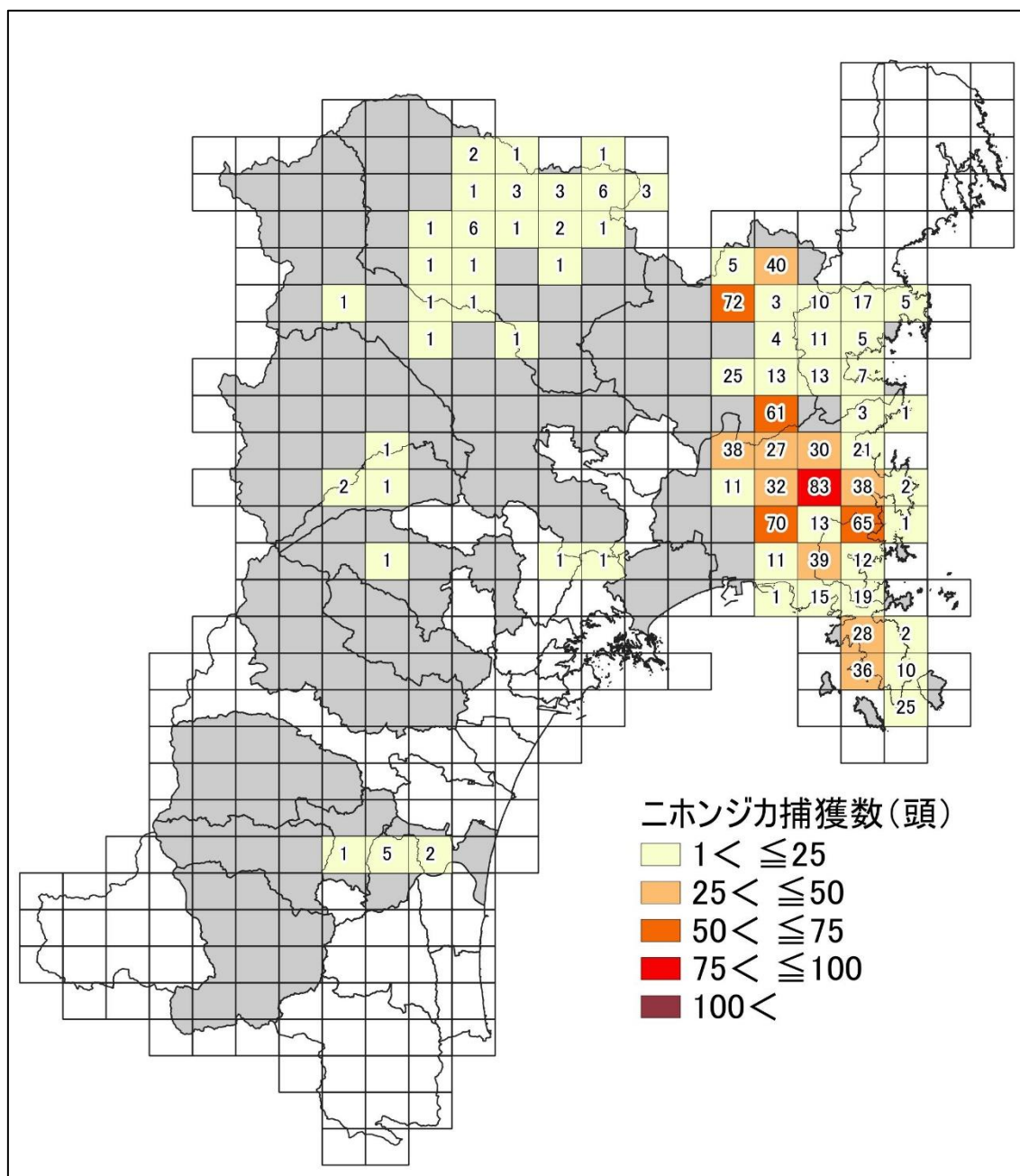
捕獲手法は、地域により様々なものが想定されることから、下記の定義は本評価シートでの暫定的なものです。

誘引狙撃	餌等により、対象種を誘引し、所定の位置から銃器により捕獲等する猟法。
巻き狩り	犬や勢子により追い出した対象種を、所定の位置で待機する射手が銃器で捕獲等する猟法。
忍び猟	単独の射手が徒歩で対象種を追跡して、射撃可能な地点で銃器により捕獲等する猟法。
車両を用いたモバイルカリング	所定の巡回ルートを車両で移動し、射撃可能な位置の対象種を銃器により捕獲等する猟法。
夜間銃猟	法律上必要な手続を全て完了した上で、日出前若しくは日没後において銃器を使用した鳥獣の捕獲等。

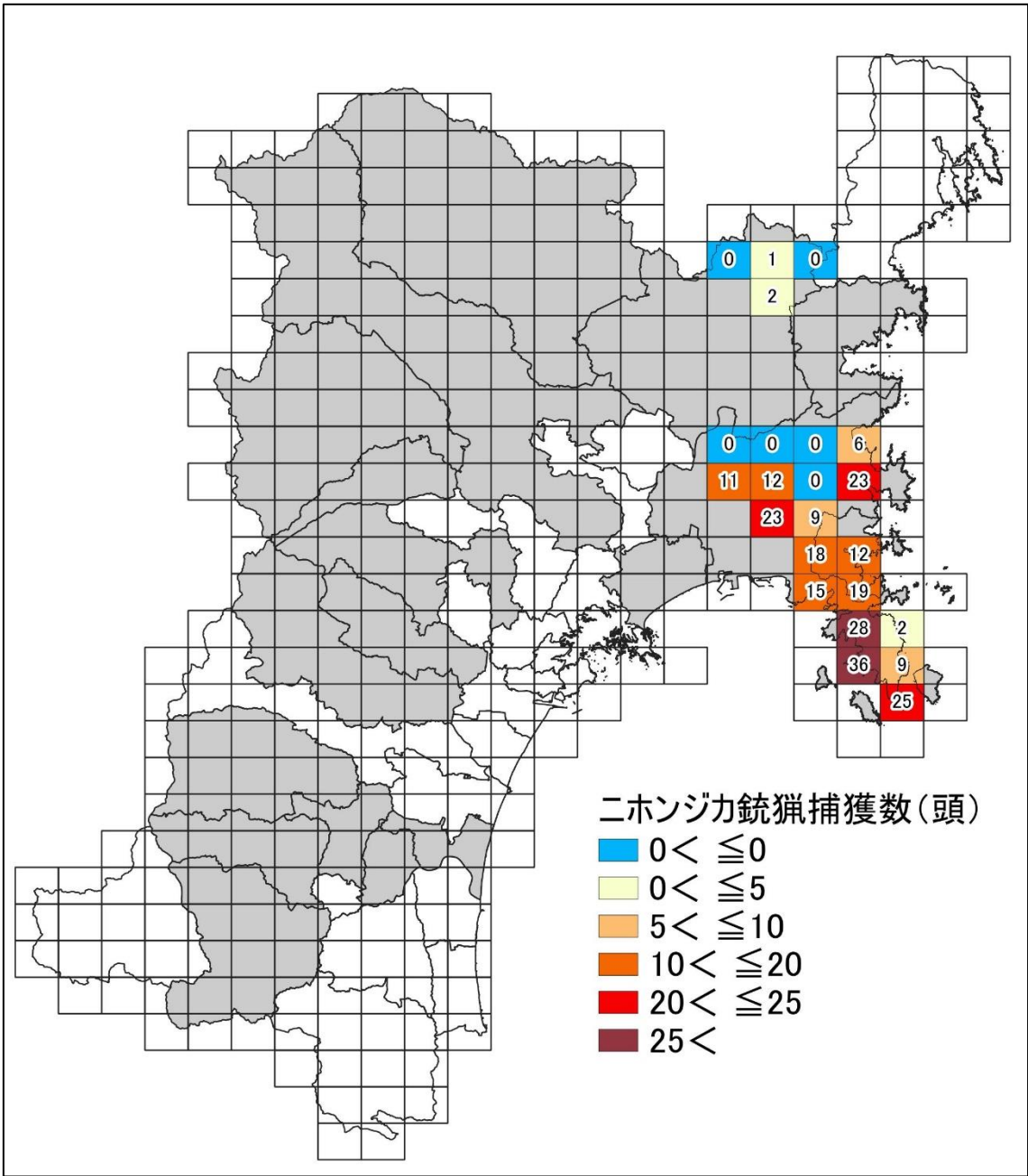
令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業捕獲（ニホンジカ）実施区域位置図



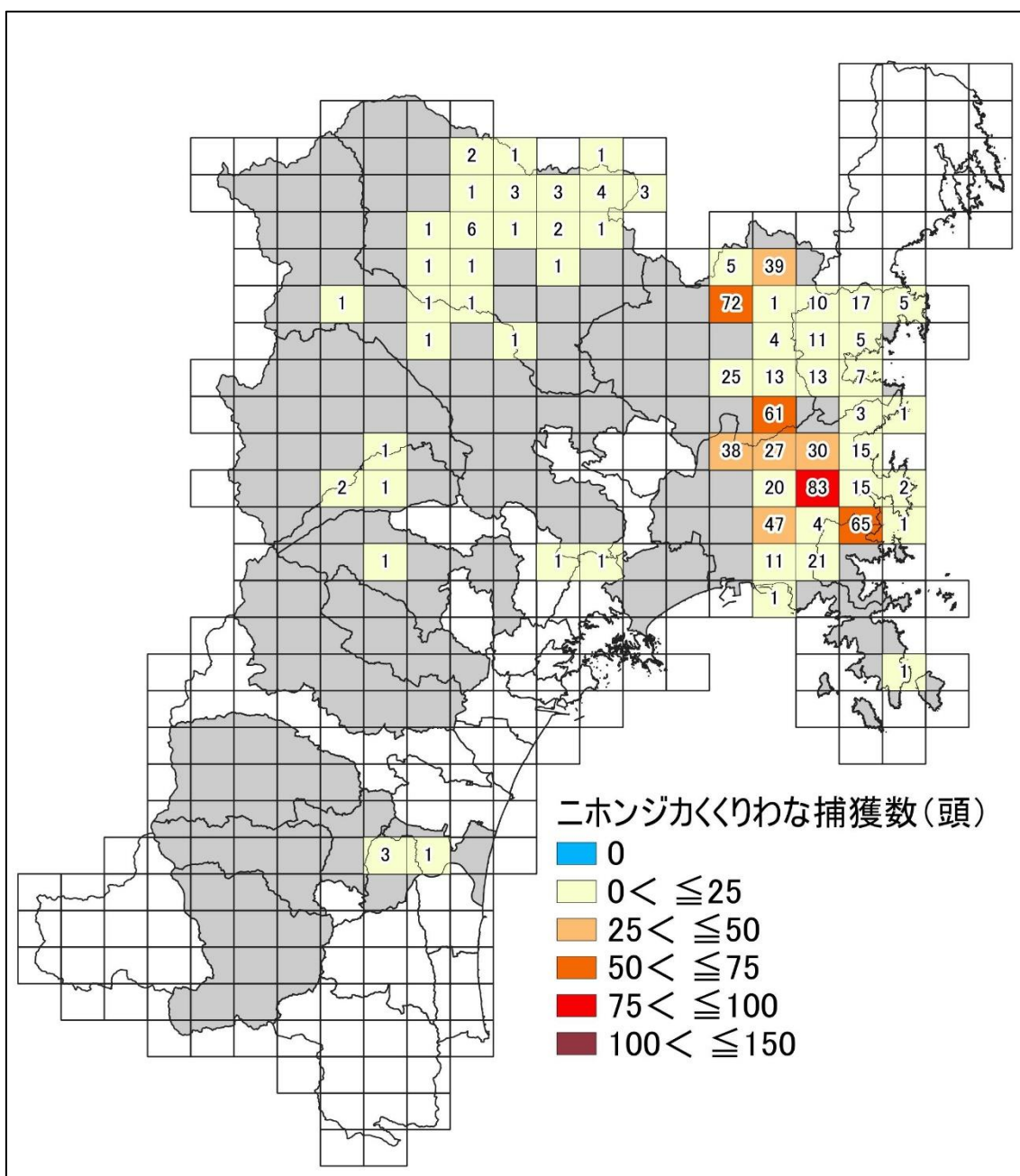
令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業捕獲（ニホンジカ）捕獲位置図



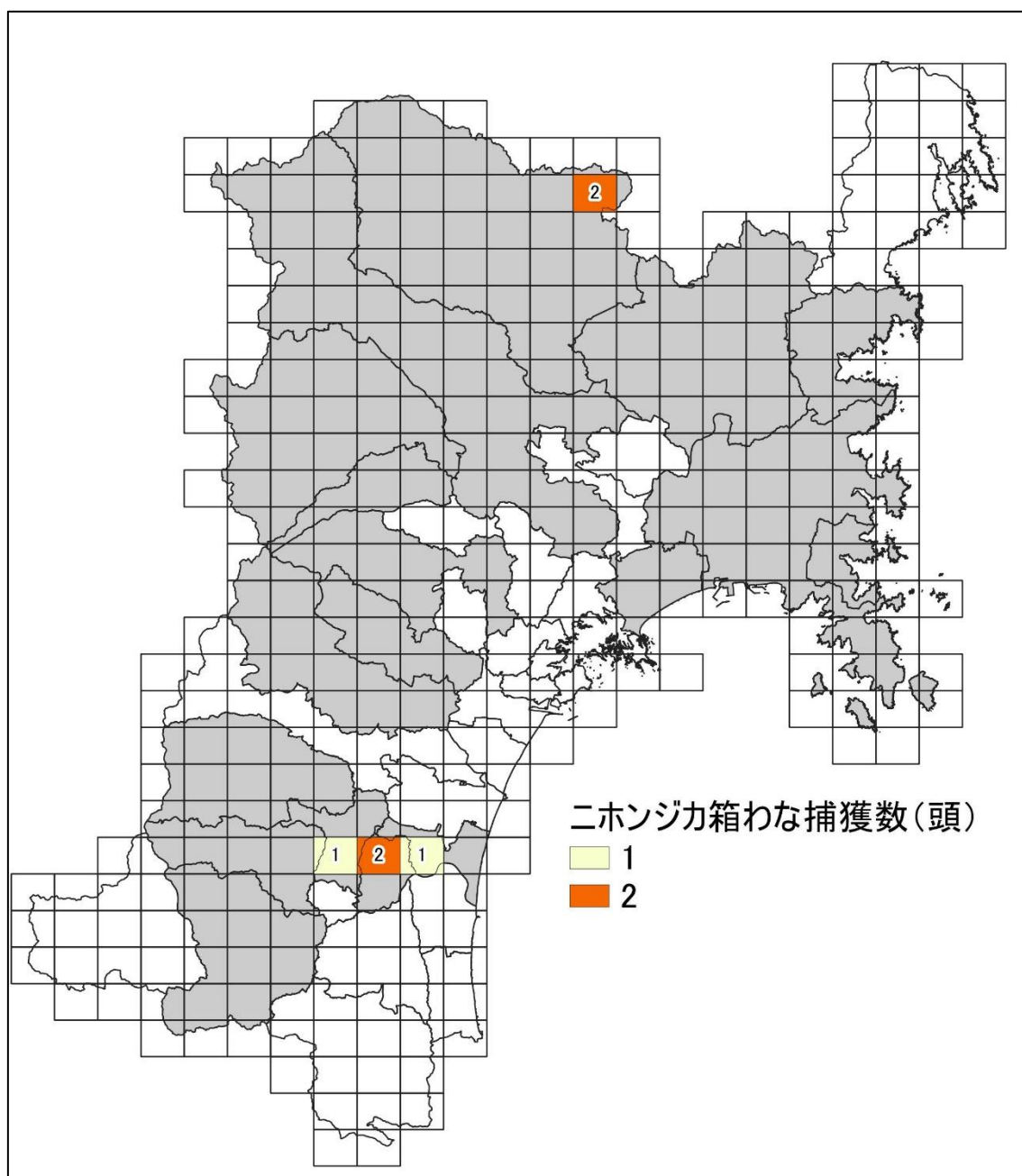
令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業捕獲（ニホンジカ）捕獲数（銃猟）位置図



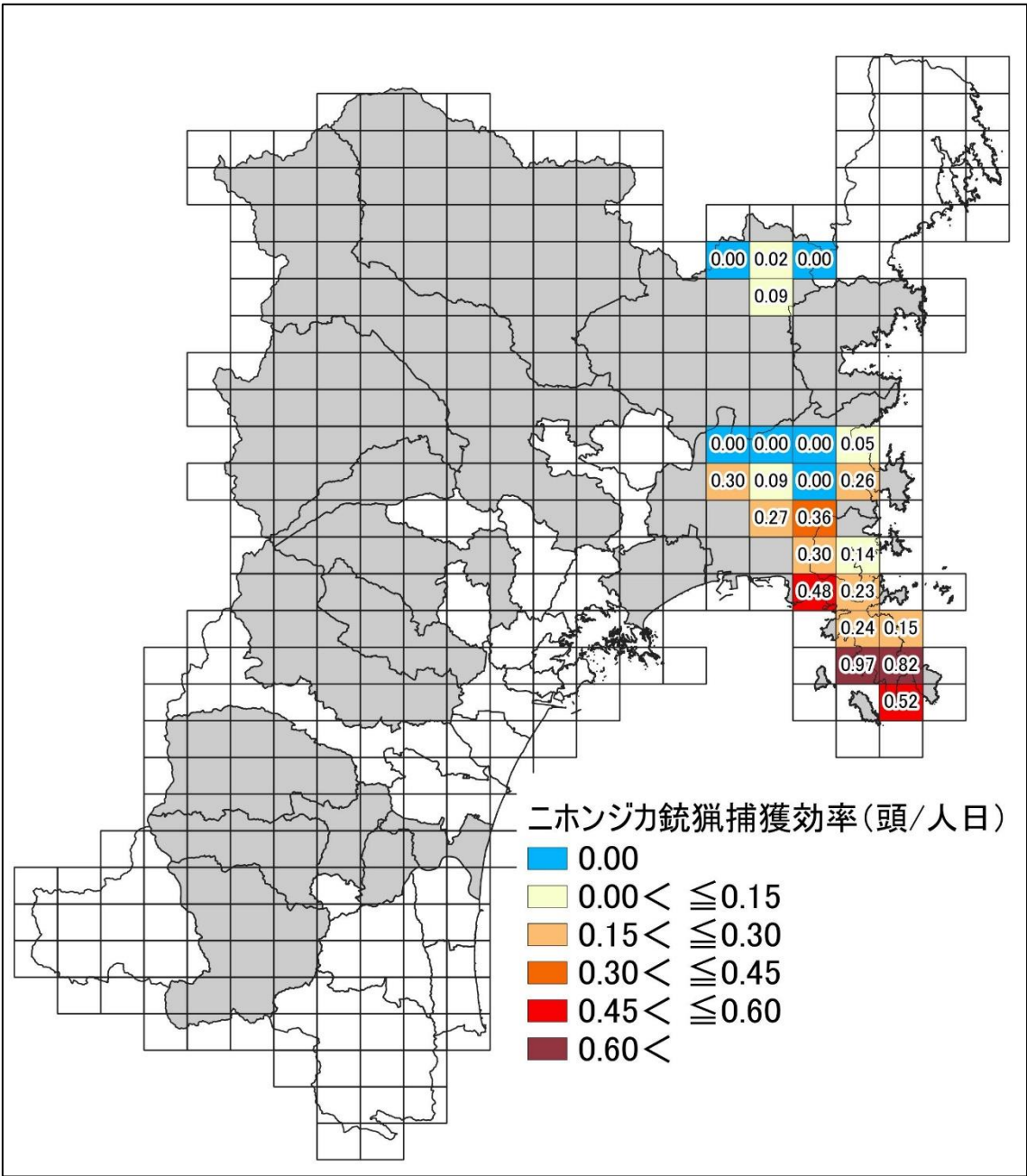
令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業捕獲（ニホンジカ）捕獲数（くくりわな）
位置図



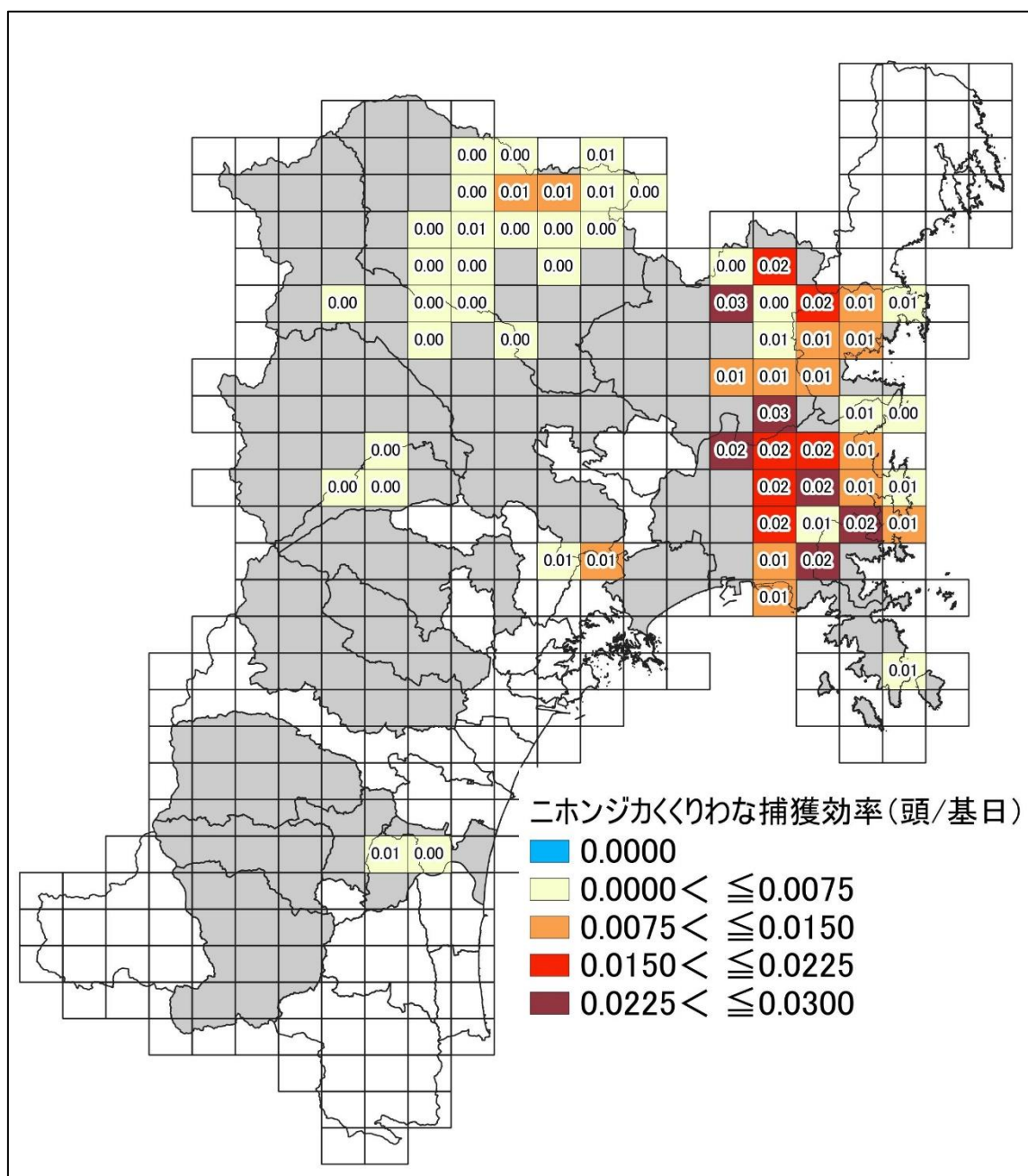
令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業捕獲（ニホンジカ）捕獲数（箱わな）
位置図



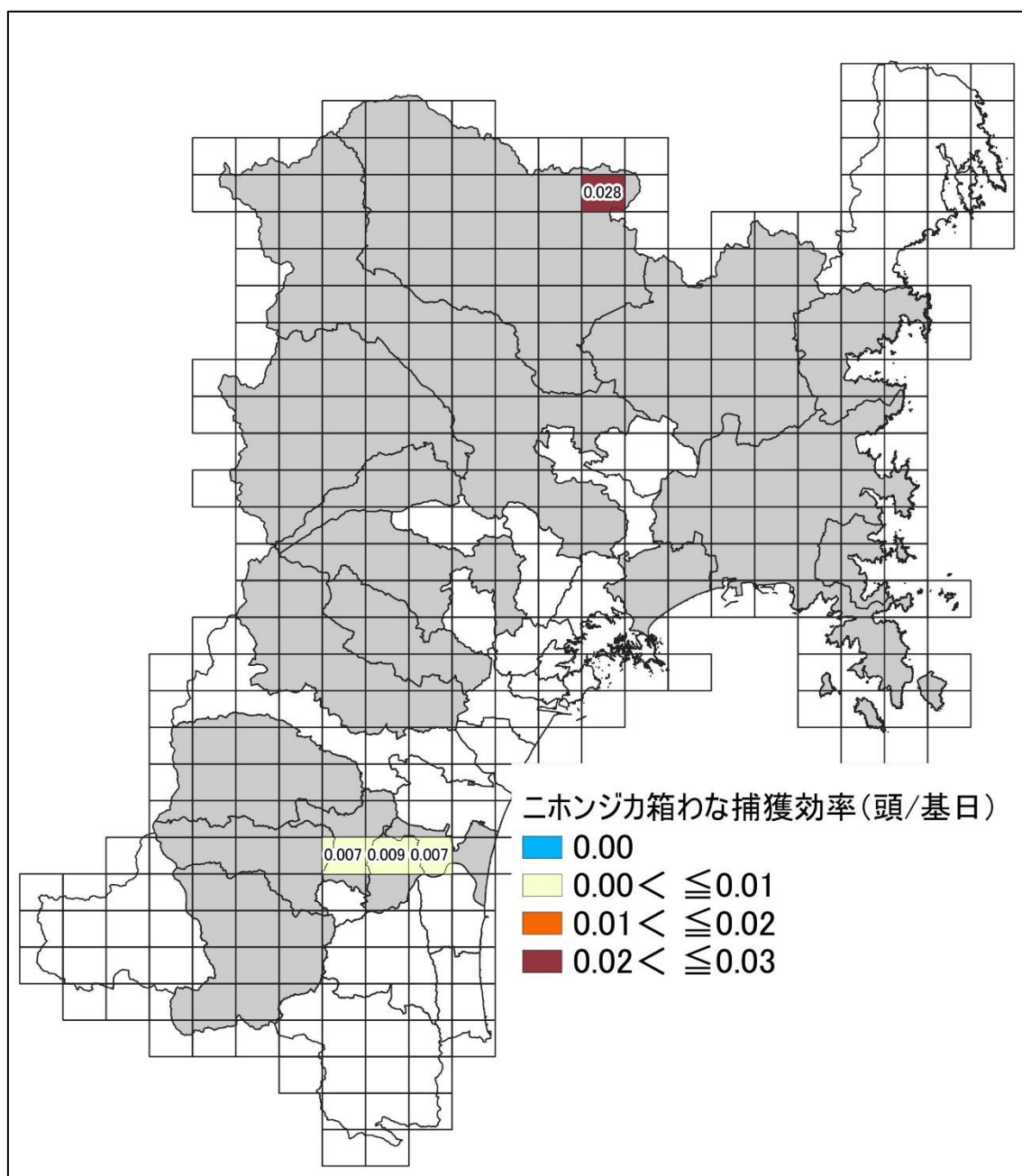
令和 6 年度指定管理鳥獣捕獲等事業捕獲（ニホンジカ） CPUE（銃猟） 位置図



令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業捕獲（ニホンジカ）CPUE（くくりわな）
位置図



令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業捕獲（ニホンジカ）CPUE（箱わな）
位置図



令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業捕獲（ニホンジカ）SPUE 位置図

